

サビエル生誕五百年



巡礼の道

331

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

大槌支援ベースキャンプ

被災地ボランティア記②

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県上閉伊郡大槌町は三陸海岸に面し、サケ、サシマ、イカ漁などが盛んな漁業の町だった。広さは二百平方キロ、山口県の周防大島町より広く、平成九年の人口は一万六千人余。

大槌ベースキャンプ・ベース長の古木神父からもらった資料によると、二〇一一年三月十一日午後二時四十六分に起こった地震で大槌町の震度は6・6。

それから二十四分後に襲った津波は最大で十二・二メートルの高さに達した。死者八百三人、今も行方不明の人が四百七十三人。被災地を案内してもらった時、古木神父は目の前の大槌湾を指さしながら「この海の底にもまだかなりの数の遺体があると思う」と言われた。

住宅・建物の被害は三千七百七十七件、現在も四十八カ所の仮設住宅に二千四百四十六世帯の人が生活している。とにかく壊滅的な被害を受けたのだ。

今回、我々十三人のボランティアが泊まった所は「カリタス大槌ベースキャンプ」。今はその面影もない大槌駅前の四階建てのビジネスホテル・寿を改修した建物である。

周囲を見回すと、この旧ホテルとすぐ前の四階建ての二軒だけが残り、そのほかはすべて流され、建物の土台部分のコンクリートだけである。町一番の繁華街だったとは想像もできないほどで、震災から一年九カ月も過ぎ

ているのに復興住宅は一軒もない。少し離れた所に二階建ての大槌町役場が見える。古木神父にここも案内してもらったが、地震のあと町長ら幹部が緊急会議を開いていた時に津波に見舞われ、町長と七人の課長を失った。一階、二階の窓枠も流されたまま



以前はホテルだった

大槌ベースキャンプ

ベースキャンプの旧ビジネスホテルは写真でわかるようにホテルの看板がそのままになっている。外壁一面に鮮やかな虹と、一階部分には以前の豊かな海の様子を描かれている。これは台湾からのボランティアの若者たちが、大槌の皆さんに希望の虹と書いたものだそう。

このベースキャンプは日本のカトリック教会の援助・福祉活動を担当する「カリタス・ジャパン」と長崎教会管区によって運営されている。ベース長の古木神父は長崎教区から震災二カ月後の五月末に派遣された。建物の改修(一、二階は完全に破壊されていた)が遅れ、十二月中旬にやっと完成したという。

大槌のほか、福島県

の原町(東京教会管区)、宮古(札幌教区)、釜石、石巻、南三陸の米川(仙台教区サポーターセンター)、大船渡(大阪教会管区)、いわき(さいたま教区)にカリタスジャパンとこの内の教会管区が協力してボランティア活動のベースキャンプを置いている。

教会関係者だけでなく一般のボランティアにも解放し、宿泊費などは無料で、被災地のボランティア活動を支援しているのだ。



ベース長の古木神父